

コミュニケーションロボットに関する調査

～「今の私には必要ないけれど…」～

【2020年11月調査結果】

調査仕様

調査目的

新型コロナウイルスの影響で人との直接のコミュニケーションの機会が減ったが、コミュニケーションロボットは、人に代わる身近なコミュニケーション相手として、受け入れられるかの意識などを調査する。

設問

- ・現状のコミュニケーションロボットに対する所有意向(コロナ流行前・流行後)
- ・欲しいコミュニケーションロボットのタイプ
- ・今後、プライベートにおいてコミュニケーションロボットと一緒に暮らしていきたいと思うか
- ・何が満たされれば、コミュニケーションロボットと一緒に暮らしていきたいと思うか
- ・コミュニケーションロボットが身近にいる社会が到来することをどう思うか

調査方法

インターネット調査

調査期間

2020年11月5日～11月12日

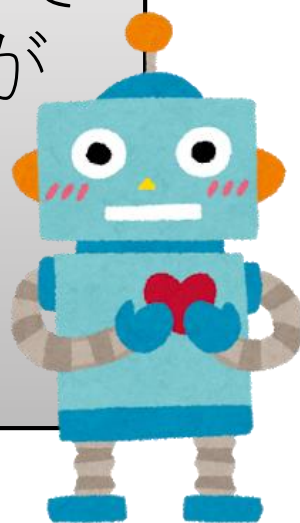
サンプル数

1354サンプル（全国の男女15～69歳）

※2019年1月1日住基（日本人）を基に人口とエリアで割付

調査結果概要

現段階では、コミュニケーションロボットは自分には必要ないと思っている人がおおよそ8割だが、今後、世の中にコミュニケーションロボットが普及していくことに対しては、5割が歓迎する傾向にあることが伺える。



全体結果

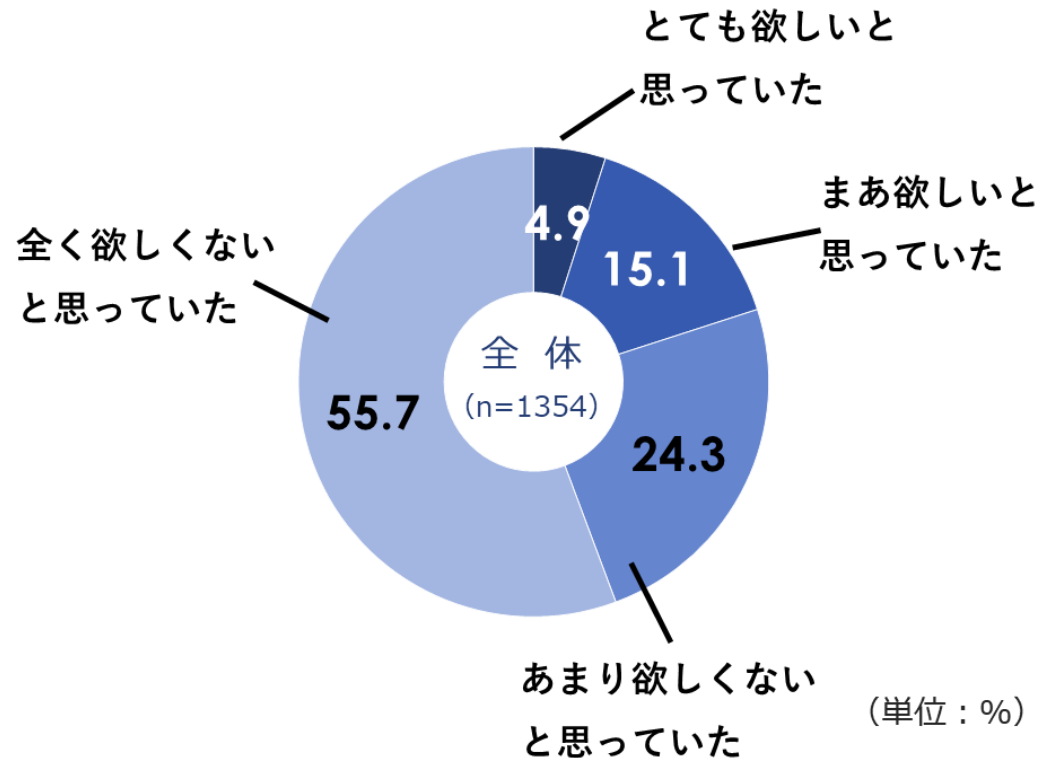
【調査結果詳細】 コロナ前後でのコミュニケーションロボットの所有意向は変わらず

新型コロナウイルス感染症が流行する以前に、プライベート用のコミュニケーションロボットが欲しいと思っていたか尋ねたところ、全体では「全く欲しくないと思っていた」と回答した人が55.7%と最も高い。

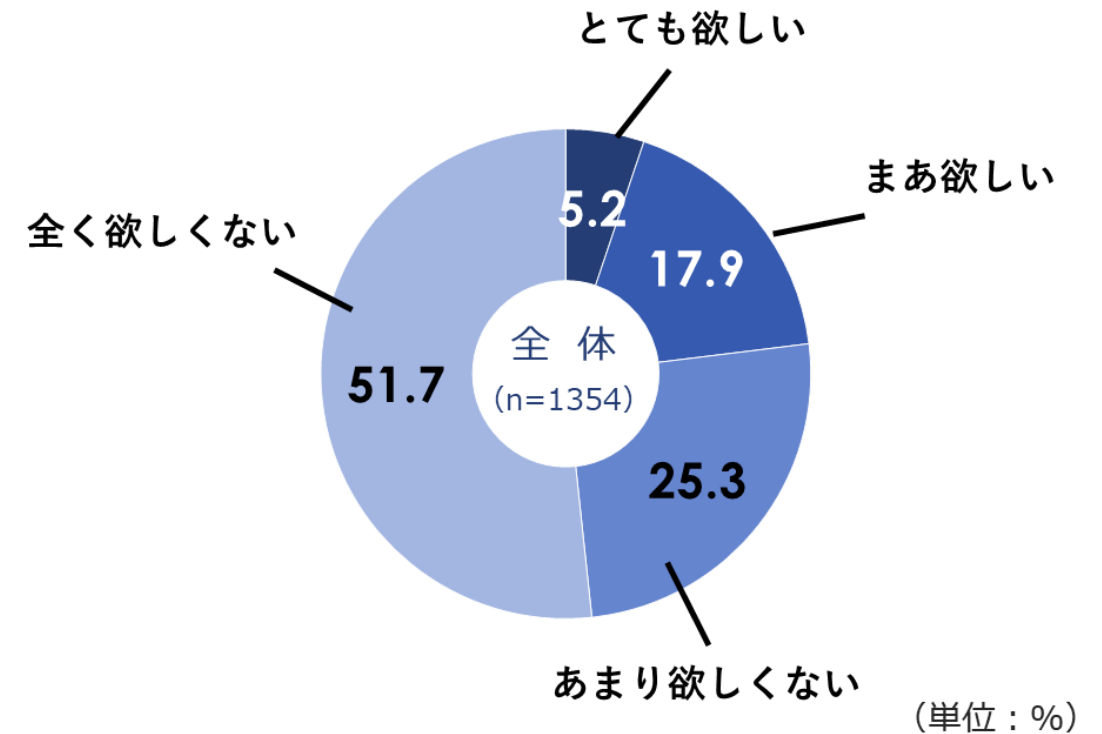
また、新型コロナウイルス感染症流行後の現在、プライベート用のコミュニケーションロボットが欲しいと思っているか尋ねたところ、全体では「全く欲しくない」と回答した人が51.7%と最も高い。

コロナウイルス感染症流行前後で、人々のコミュニケーションロボットに対する所有意向は変わらなかったことが伺える。

Q1. あなたは、新型コロナウイルス感染症が流行する以前(2020年2月以前)に、
プライベート用のコミュニケーションロボットが欲しいと思っていましたか。(1つだけ)



Q2. あなたは、新型コロナウイルス感染症流行後の現在、
プライベート用のコミュニケーションロボットが欲しいと思っていますか。(1つだけ)

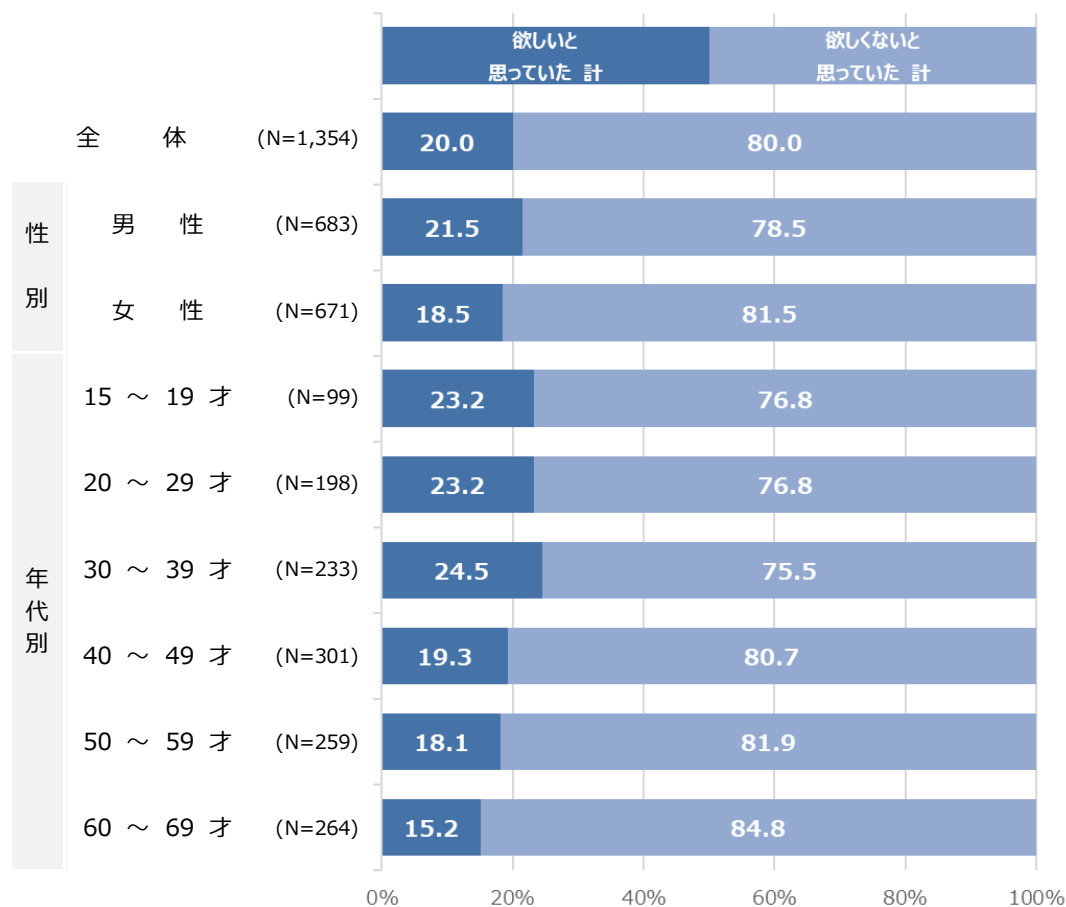


【調査結果詳細】 所有意向は年代別で見ても、特に大きな差は見られない

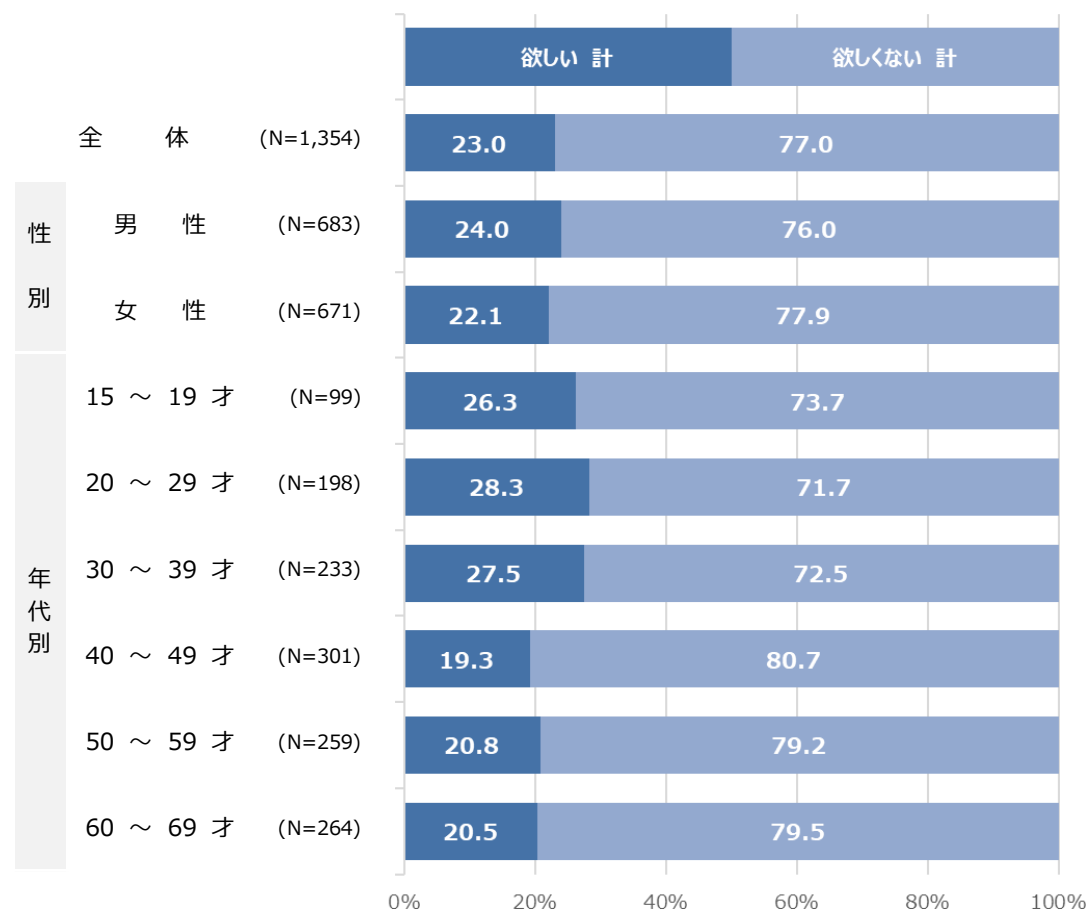
Q1とQ2ともに、年代別で見ても、新型コロナウイルス感染症が流行する前と後で年代間に特に大きな差は見られず、いずれの年代でも「欲しくないと思っていた 計」、「欲しくない 計」が7~8割と「欲しいと思っていた 計」「欲しい 計」を大きく上回っている。

※ Q1の「とても欲しいと思っていた」と「まあ欲しいと思っていた」、「全く欲しくないと思っていた」と「あまり欲しくないと思っていた」をそれぞれ合計し、「欲しいと思っていた 計」と「欲しくないと思っていた 計」にまとめた。同様に、Q2の「とても欲しい」と「まあ欲しい」、「全く欲しくない」と「あまり欲しくない」をそれぞれ合計し、「欲しい 計」と「欲しくない 計」でまとめた。

Q1. あなたは、新型コロナウイルス感染症が流行する以前(2020年2月以前)に、プライベート用のコミュニケーションロボットが欲しいと思っていましたか。(1つだけ)



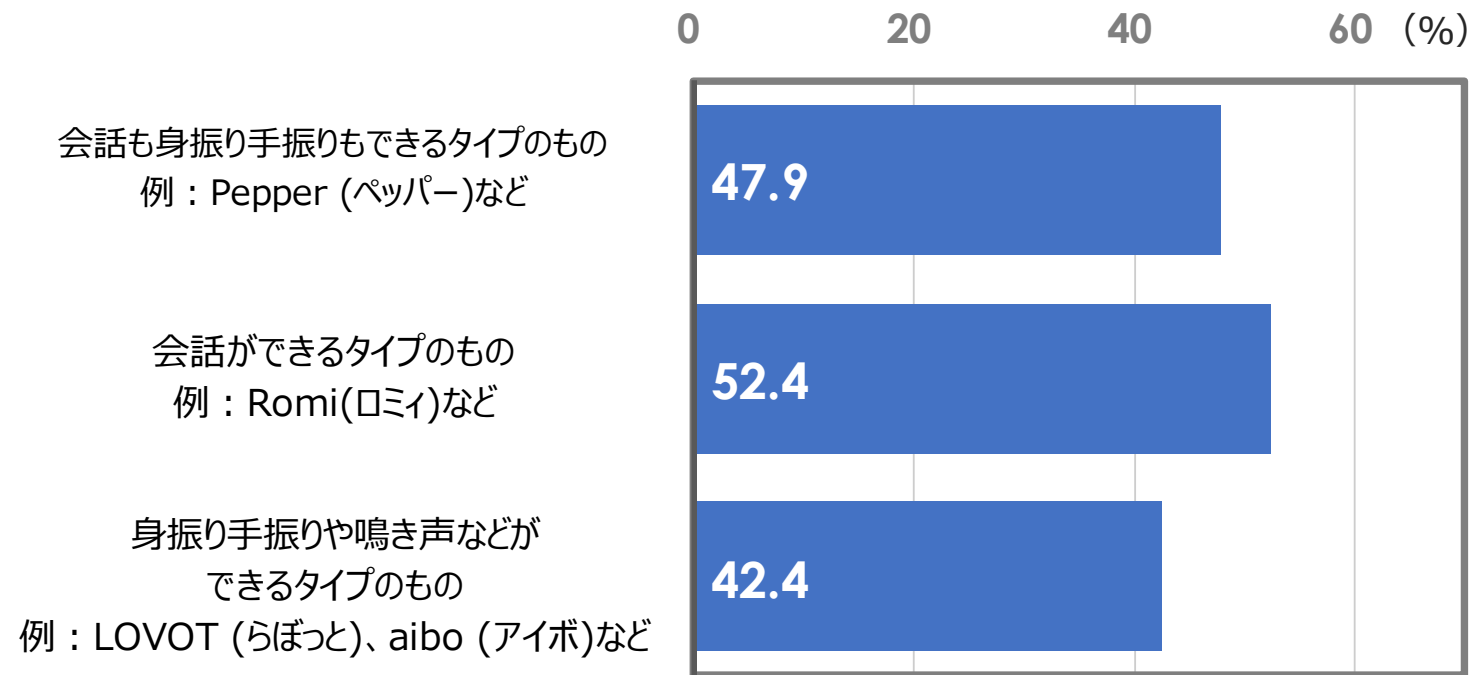
Q2. あなたは、新型コロナウイルス感染症流行後の現在、プライベート用のコミュニケーションロボットが欲しいと思っていますか。(1つだけ)



【調査結果詳細】 どんなタイプのコミュニケーションロボットが欲しい？・・・ばらつきあり

Q1またはQ2で「とても欲しい」「まあ欲しい」と回答した人に、どんなプライベート用のコミュニケーションロボットが欲しいと思っていたか、もしくは欲しいと思っているか尋ねたところ、全体では「会話ができるタイプのもの」と回答した人が52.4%と最も高いが、「会話も身振り手振りもできるタイプのもの」、「身振り手振りや鳴き声などができるタイプのもの」もそれぞれ47.9%と42.4%で3タイプの間に大きな差は見られない。

Q3. あなたはどんなプライベート用のコミュニケーションロボットが欲しいと思っていましたか。もしくは欲しいと思っていますか。（いくつでも）
(N=330)



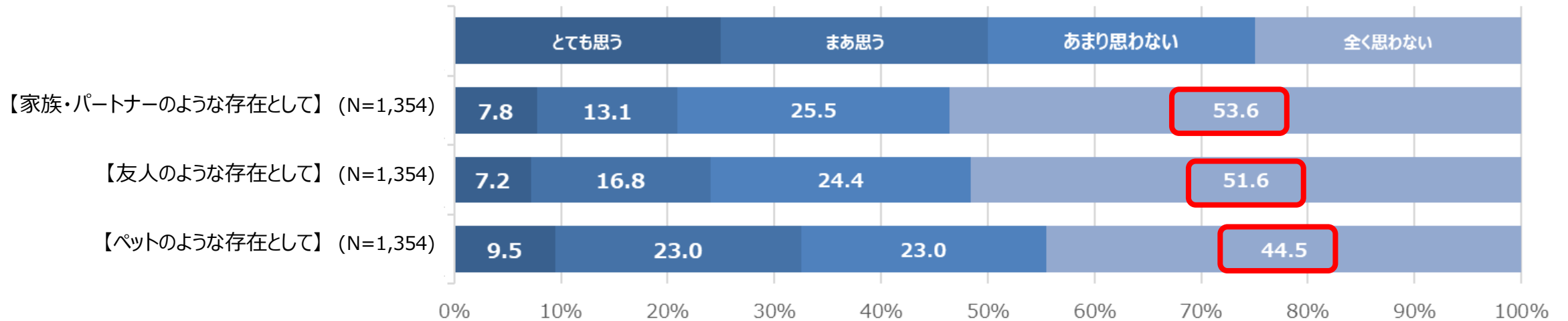
【調査結果詳細】 今後も、身近な存在としてコミュニケーションロボットは必要ない

全員に、今後、コミュニケーションロボットと一緒に暮らしたいと思うか尋ねたところ、

- ・【家族・パートナーのような存在として】は、全体では「全く思わない」と回答した人が53.6%と最も高い。
- ・【友人のような存在として】も同様に尋ねたところ、全体では「全く思わない」と回答した人が51.6%と最も高い。
- ・【ペットのような存在として】も同様に尋ねたところ、全体では「全く思わない」と回答した人が44.5%と最も高い。

今後も、身近な存在としてコミュニケーションロボットは必要ない考える人が多いことが伺える。

Q4. あなたは今後、コミュニケーションロボットと一緒に暮らしたいと思いますか。（それぞれ1つだけ）

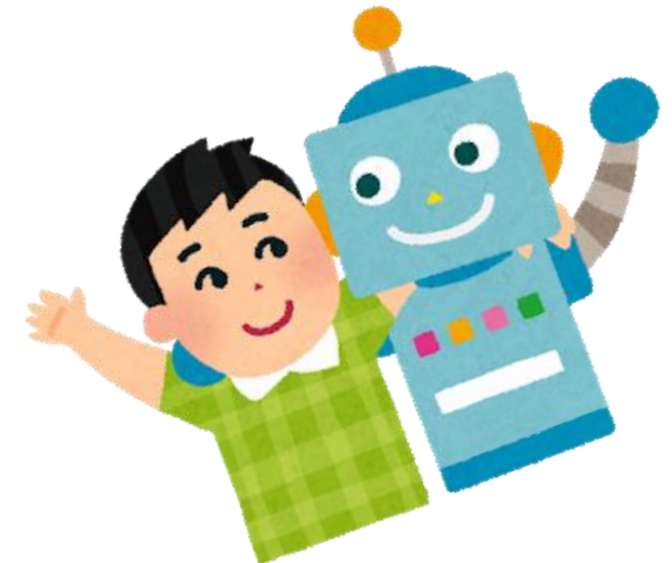
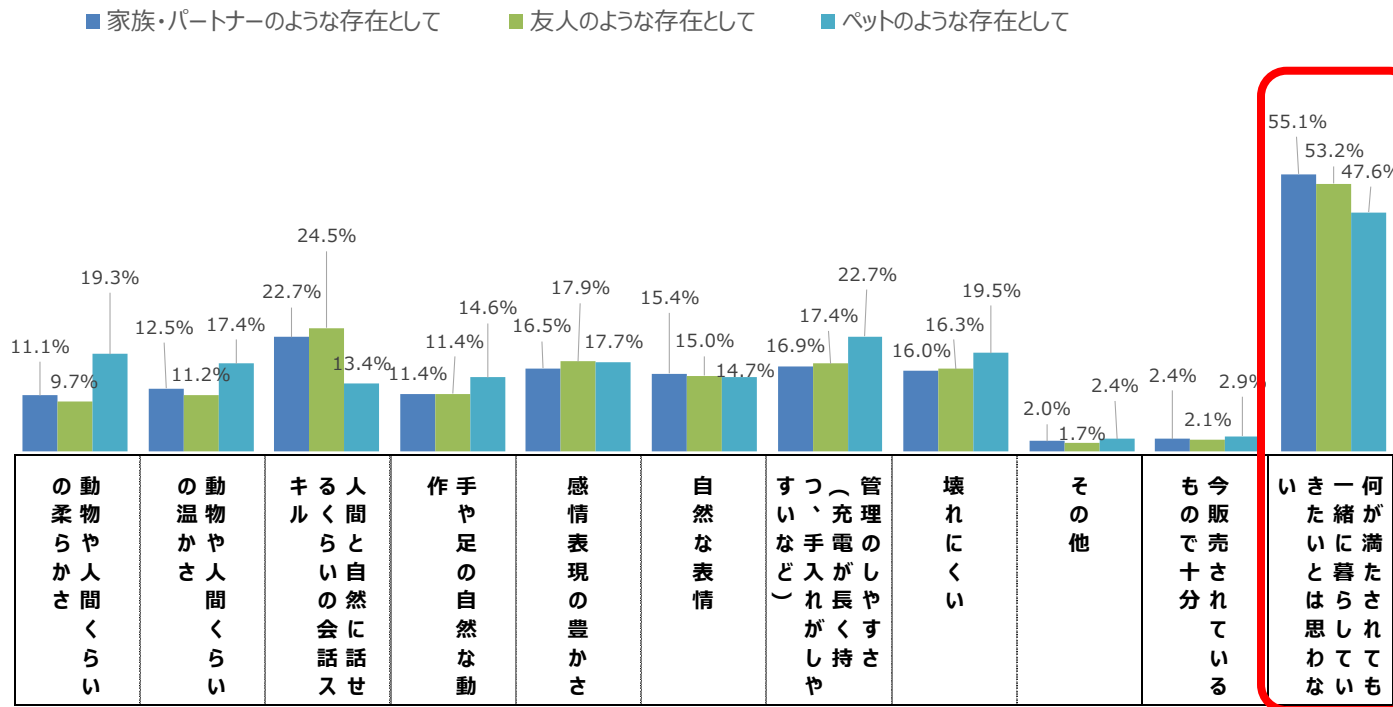


【調査結果詳細】 何が満たされてもコミュニケーションロボットと一緒に暮らしたいとは思わない？

全員に、何が満たされれば、今後コミュニケーションロボットと一緒に暮らしていきたいと思うか尋ねたところ、

- ・【家族・パートナーのような存在として】は、全体では「何が満たされても一緒に暮らしていきたいとは思わない」が55.1%と最も高い。それ以外では、「人間と自然に話せるくらいの会話スキル」が22.7%と最も高い。次いで「管理のしやすさ」が16.9%、「感情表現の豊かさ」が16.5%と続く。
- ・【友人のような存在として】は、全体では「何が満たされても一緒に暮らしていきたいとは思わない」が53.2%と最も高い。それ以外では、「人間と自然に話せるくらいの会話スキル」が24.5%と最も高い。次いで「感情表現の豊かさ」が17.9%、「管理のしやすさ」が17.4%と続く。
- ・【ペットのような存在として】は、全体では「何が満たされても一緒に暮らしていきたいとは思わない」が47.6%と最も高い。それ以外では、「管理のしやすさ」が22.7%と最も高い。次いで「壊れにくい」が19.5%、「動物や人間くらいの柔らかさ」が19.3%と続く。

Q5. 何が満たされれば、あなたは今後コミュニケーションロボットと一緒に暮らしていきたいと思いますか。(それぞれいくつでも)
(N=1,354)

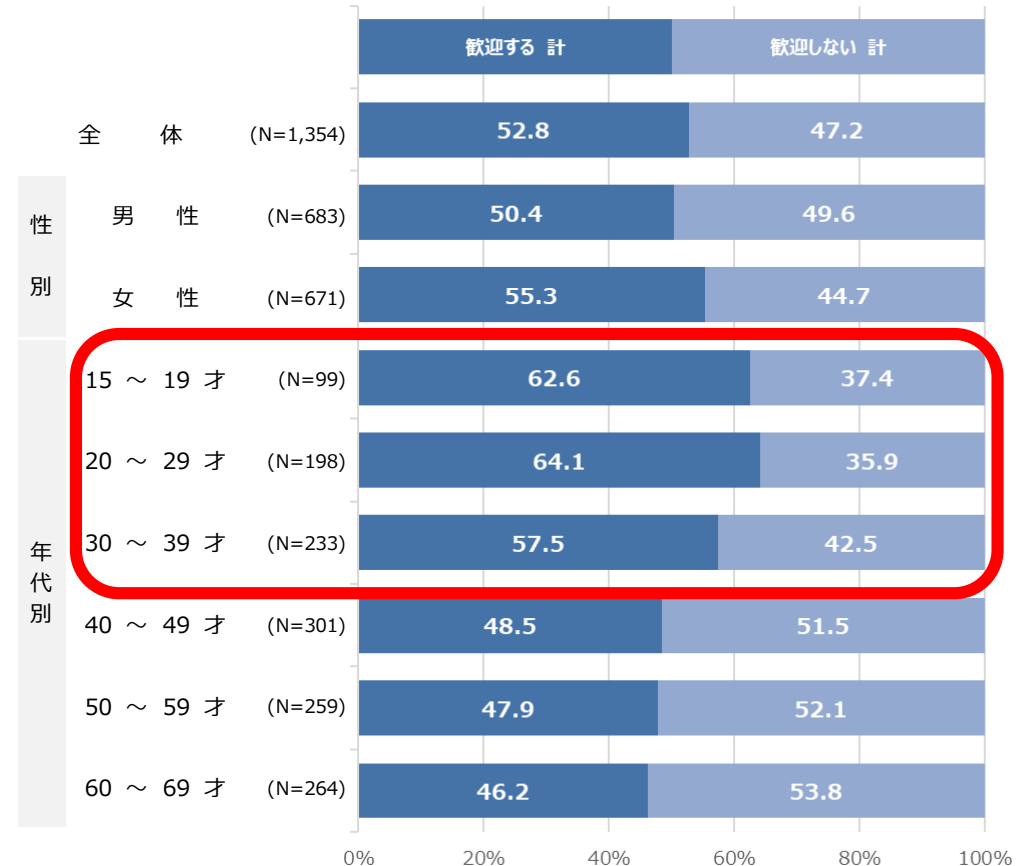
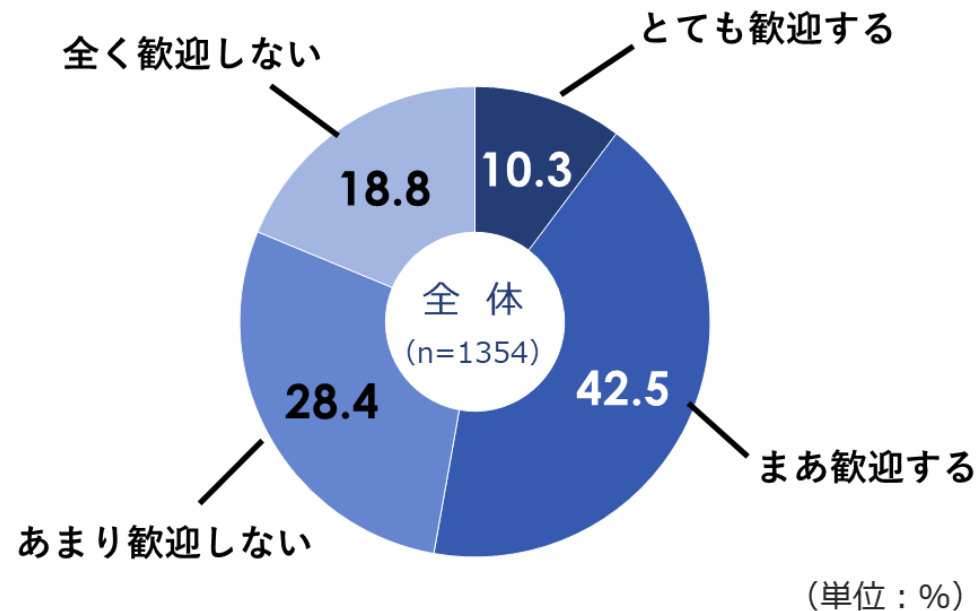


【調査結果詳細】 それでも若年層を中心に、世の中にコミュニケーションロボットが増えていくことを歓迎？！

コロナによる人との非接触・非対面の機会が今後ますます増えていくかもしれない中、その代わりに店や公共機関で接客するロボットがいることや、野良猫やハトのように町中を自由に移動するロボットがいること、家族やパートナーとして、家の中でともに暮らすロボットがいる世界についてあなたはどうか尋ねたところ、全体では「まあ歓迎する」が42.5%と最も高い。

「とても歓迎する」と「まあ歓迎する」、「全く歓迎しない」と「あまり歓迎しない」をそれぞれ合計し、年代別で見ると、若年層では6割、他の年代でもおおむね5割が歓迎すると回答した。Q1やQ2で“（プライベートでは）欲しくない計”がおおむね8割だったが、世の中にコミュニケーションロボットが増えていくことに関しては歓迎する結果となった。

Q6. コロナによる人との非接触・非対面の機会が今後ますます増えていくかもしれない中、その代わりに店や公共機関で接客するロボットがいることや、野良猫やハトのように町中を自由に移動するロボットがいること、家族やパートナーとして、家の中でともに暮らすロボットがいる世界についてあなたはどのように思いますか。（1つだけ）



※Q6の「とても歓迎する」と「まあ歓迎する」、「全く歓迎しない」と「あまり歓迎しない」をそれぞれ合計し、「歓迎する 計」と「歓迎しない 計」でまとめた。

《引用・転載時のお願い》

本レポートの外部への引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先：日本リサーチセンター広報室 (information@nrc.co.jp)

担当：営業企画本部営業企画部第3チーム 中垣 花瑠奈

掲載では必ず当社クレジットを明記していただき、調査結果のグラフ・表をご利用の場合も、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。